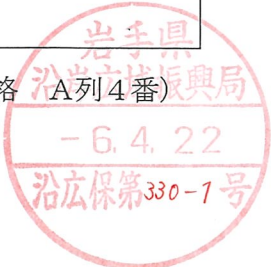


(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2024(R6)年 4月22日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者 住 所 岩手県釜石市両石町第四地割二十四番地 氏 名 釜石レミコン株式会社 代表取締役 藤井弘雄 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0193-23-5640	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	釜石レミコン 株式会社 第一工場
事業場の所在地	岩手県釜石市両石町第四地割二十四番地
計画期間	2024(R6)年4月1日 ～ 2025(R7)年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	製造業 (レディーミクストコンクリート製造)
② 事業の規模	496,283,774円
③ 従業員数	19名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	生コン製造→生コン納入→残コン、戻りコン発生→工場固化処理 (コンクリートくず・生コンスラッジ(汚泥)) → 自社運搬又は、産業廃棄物収集運搬業者に委託し、産業廃棄物中間処理 施設に搬入

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

品質管理責任者 (公害防止統括者)

製造試験係長(代理者)

担当者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度 (2023 (R5) 年度) 実績】

産業廃棄物の種類	コンクリートくず	汚 泥
排 出 量	1737.46 t	33.10 t

(これまでに実施した取組)
生コン打設時、施工者と十分打ち合わせを行い、数量を把握し残コン・戻りコンが発生しないように努力しています。
産業廃棄物の排出量は、納入現場で発生する残コン、戻りコンが占める為、現状、抑制が難しいです。

②計画

【目標】 大部分が生産工程で発生しないため目標は立てられない

産業廃棄物の種類	コンクリートくず	汚 泥
排 出 量	2500 t	300 t

(今後実施する予定の取組)
残コン、戻りコンが極力少なくなるよう、事前に販売店、生コン打設現場と十分打ち合わせを行い、使用数量の把握をする。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
分別処理はなし

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
分別処理の予定はなし

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2023(R5)年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 再生利用の実績なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 方塊ブロックの製作等を行い、再利用する方法を検討したい		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2023(R5)年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実績なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	- t	- t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2023(R5)年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2023(R5)年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	汚 泥
	全 処 理 委 託 量	1737.46 t	33.10 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	— t	— t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	1737.46 t	33.10 t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 当社と契約している収集運搬及び処分業者を利用している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	汚 泥
	全 処 理 委 託 量	2,500 t	300 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	未定 t	未定 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	2,500 t	300 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	- t	- t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 出荷前の打ち合わせ、確認をこれまで以上に徹底し、残コン、 戻りコンが発生しないよう努力する。		
※事務処理欄			

(産業廃棄物の種類: コンクリートくず)

有償物量

排出量

②	0	t
	0	

③	0	t
---	---	---

⑧	0	t
	0	

⑨	0	t
	0	

(12)	2,065.04	t
	3,000.00	

	0	t
⑬	0	

14	0	t
	0	

10	1,737.46	t
----	----------	---

⑪	0	t
---	---	---

	0	
④	0	t

⑥	0	t
	0	

⑤	0	t
	0	

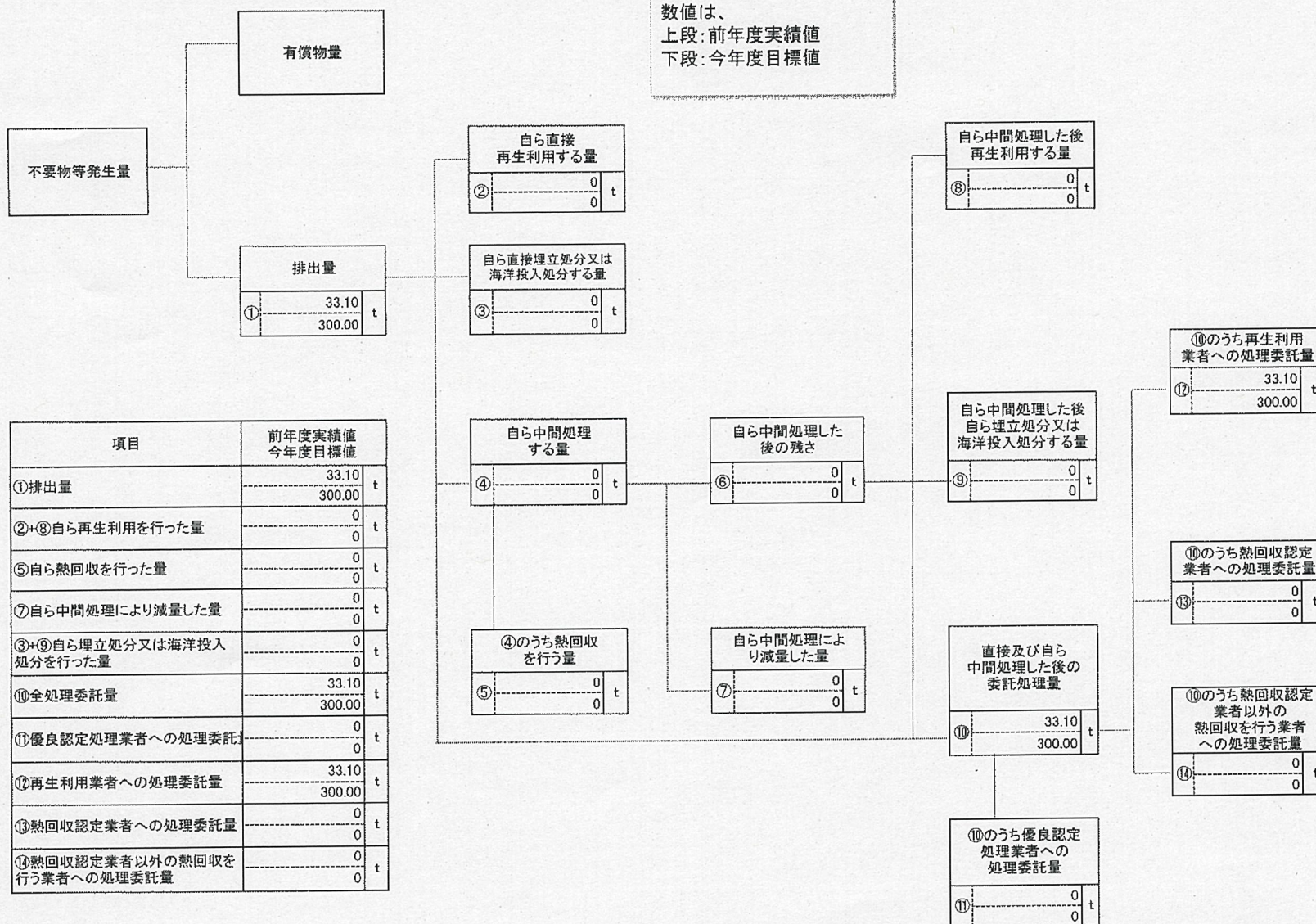
⑦	0	t
	0	

項目	前年度実績値 今年度目標値
①排出量	1,737.46 ----- 2,500.00
②+⑧自ら再生利用を行った量	0 ----- 0
⑤自ら熱回収を行った量	0 ----- 0
⑦自ら中間処理により減量した量	0 ----- 0
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入 処分を行った量	0 ----- 0
⑩全処理委託量	1,737.46 ----- 2,500.00
⑪優良認定処理業者への処理委託量	0 ----- 0
⑫再生利用業者への処理委託量	1,737.46 ----- 2,500.00
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0 ----- 0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量	0 ----- 0

【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 汚泥(生コンスラッジ))

数値は、
上段: 前年度実績値
下段: 今年度目標値



備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。